

ま施日程 11月

ひょうごけん ひめじし 兵庫県 姫路市



デフ・パペットシアター・ひとみの紹介

日本でただひとつ、ろう者と聴者が一緒に人形劇を作って いるプロの劇団です。

1980年に劇団創立。今年は劇団ができてから 44年目です。 はまっかいとう おきなわ にほんぜんこく こうえん 北海道から沖縄まで、日本全国で公演しています。

かいがいこうえん おお 海外公演も多く、チェコ、フランス、ポーランド、エジプト、 イエメン、アラブ首 長国連邦、バーレーン、カンボジア、香港、 _{であること} 韓国、ニュージーランド、アメリカなどで公演してきました。

「デフ」は deaf(ろう者)

「パペットシアター」とは

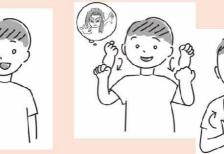
Puppet Theater(人形劇団) 「ひとみ」は **首で見て楽しむ♪**

という意味が込められています!

パペットシアタ-



にんぎょう 【人形】 【壟】



げき だんたい



【劇】【団体】



ひとみ

[月]



えのもと 榎本 トオル

すえなが かい 末永 快

すずき あや 鈴木 文

つるた り さ 鶴田 理紗

やなせ けいこ

スタッフ

まゃくほん うのこしろう なかむらたかお脚本:宇野小四郎・中村孝男

演出:伊東史朗・中村孝男

英術:片岡昌

まんがく まとうけんいち 音楽:佐藤謙一・やなせけいこ

照明プラン:後藤義夫·あおきたかし

照明操作:あおきたかし ううしゃ ぼうさいかんしゅう おおすぎゆたか 聾者の防災監修:大杉豊



しゃ ちょうしゃ とも ぼうさいにんぎょうげき ろう者と聴者が共につくる防災人形劇



がっこうじゅんかいこうえん学校巡回公演

ぜんこく しょうがっこう ちゅうがっこうとう ぶん かげいじゅつだんたい じゅんかいこうえん おこな つう 全国の小学校・中学校等においてトップレベルの文化芸術団体による巡回公演を行うことを通じて、 ぶんかてき ちいきかくき かいよう そくしん 文化的な地域格差の解消を促進することを目的としています。

ことも じつえんしどうまた かんしょうしどう おこな じつえん こども ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供た ちが参加できる工夫を行います。



またいけいじゅつとうそうごうしぇんじぎょう がっこうじゅんかいこうえん舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演) どくりつぎょうせいほうじんにほんげいじゅつぶんかしんこうかい独立行政法人日本芸術文化振興会

あらすじ

うみぞ むら たかだい す しょうや ごへぇ ぶきみ ゆ かん 海沿いの村の高台に住む庄屋の五平衛は、不気味な揺れを感じました。

ふと、海辺をみてみると潮がひいていきます。「津波が来る!」と思った五兵衛は村人に津波を 知らせようとします。しかし、下の村では村の人たちは祭の準備でいそがしく、全く気が付 きません。そこで五卒常は、首分の苗んぼの、刈り取ったばかりの稲むらに火をつけます。

火事だと思った村人たちは、火を消すために、次々と高台へ登っていきます。

まもなく、大津波が下の村を飲み込みました。

おらびと 村人は、五平衛が皆を助けるために、大切な稲を燃やしたことを知り、感謝しました。





人形劇の後に、災害時に、聾者がどんなことに困っているかを紹介し、それに対する対処の 仕方を楽しくご紹介します。

稲むら とは?

か と いね いなわら いね くき かわ 刈り取った稲や稲藁(稲の茎を乾かしたもの) を積み重ねたものです。

昔の人にとっては、財産ともいえるぐらいの とても大切なものでした。







稲むらの火のモデルとなった濱口梧陵さん

「稲むらの火」は、今から 150年ほど前に起こった「安政大地震」の時 ひろむら げん わかやまけんひろかわちょう すく に、梧陵さんが広村(現:和歌山県広川町)を救ったお話をもとに書 かれました。梧陵さんは、大地震のあとも村のために堤防をつくるなど、 tら ぽラセい ちから 村の防災のために 力 をそそぎました。



さみも手話をやってみぐい



手のひらを下向き、指先を右に向け た左手の上を右手で波のようにおお いかぶさるように動かす。



手のひらを上に向けた満手を に 同時に 前後に揺らす。



右手指先を左胸と右胸に順 に当てる。心配そうな表情



右手を左手に軽く当て、拝むよ うにする。

さいとうはるみち

手話イラスト: 齋藤陽道